平成２１年度 畑作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人　日本植物調節剤研究協会

平成21年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成21年12月3日(木)～4日(金)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者43名、委託関係者44名ほか、計121名の参集を得て、除草剤の作用性試験19薬剤、適用性試験34薬剤、生育調節剤作用性試験3剤、適用性試験5剤、及び展着剤2剤について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成21年度　畑作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A.除草剤

注1)ｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは拡大部分　注2)作物名のｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
AC-263液 ｲﾏｻﾞﾓｯｸｽｱﾝﾓﾆｳﾑ塩 0.85% [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	大豆	継								・効果、薬害の確認
AH-01液 ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄPﾅﾄﾘｳﾑ塩 11.5% [明治製菓、北興化学工業]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南		・播種後出芽前処理での効果、薬害の確認(東北以南) ・畦間・株間処理での年次変動の確認(北海道)
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期			全域	・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
				茎葉 (畦間・株間)	生育期(本葉5葉期以降) 雑草生育期 (草丈20cm以下)			全域	・専用ﾉｽﾞﾙを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する	
	とうもろこし(食用)	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播種14日前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南		
	ばれいしょ	実・継	一年生雑草	茎葉	植付後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	100～200mL <水量100～150L>	全土壌	全域		・畦間処理での年次変動の確認(北海道)
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	全域	・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
	こんにゃく	実・継	一年生雑草	茎葉	植付後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	全域		・畦間処理での年次変動の確認
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期				・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
	あわ	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播種14日前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南		

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
AK-01液 ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾐﾝ塩 41% [TAC普及会]	菜豆	継								・効果、薬害の確認
AL-513乳 ｱﾗｸﾛｰﾙ 30%、ﾘﾆｭﾛﾝ 12% [日産化学工業、ﾃﾞｭﾎﾟﾝ]	菜豆	実・継(従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400～600mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・初生葉に黄化、縮葉、褐変等がみられる場合がある	・年次変動の確認(東北以南)
	ばれいしょ	実・継(従来どおり)	一年生雑草	土壌	植付後萌芽前、雑草発生前	400～600mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・高薬量では縮葉等がみられる場合がある	・年次変動の確認(東北以南)
ALH-0731乳 ﾌﾟﾛﾋﾟｿｸﾛｰﾙ76.2% [ｱﾘｽﾀ ﾗｲﾌｻｲｴﾝｽ]	大豆	継								・効果、薬害の確認
	菜豆	継								・効果、薬害の確認
	とうもろこし(飼料用および食用)	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	200～300mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域		・年次変動の確認(飼料用、食用)
	とうもろこし(食用)	実・継	一年生イネ科雑草		とうもろこし1～2葉期、イネ科雑草2葉期まで					・とうもろこし(飼料用)での効果、薬害の確認 ・とうもろこし(食用)での年次変動の確認
	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
	てんさい(移植)	継								・効果、薬害の確認
ANK-553(改)乳 ﾍﾟﾝﾃﾞｨﾒﾀﾘﾝ 30% [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	かんしょ	継								・効果、薬害の確認
BAH-0805乳 ｼﾞﾒﾃﾅﾐﾄﾞP 21.25%、ﾍﾟﾝﾃﾞｨﾒﾀﾘﾝ 25%(w/v) [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	とうもろこし(飼料用および食用)	継								・効果、薬害の確認
BAS-656乳 ｼﾞﾒﾃﾅﾐﾄﾞP 64% [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	とうもろこし(飼料用、食用)	実・継	一年生雑草(ｱｶｻﾞ科、ｱﾌﾞﾗﾅ科、ﾀﾃﾞ科を除く)	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	75～120mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	東北以南		・出芽直前～揃期処理での効果、薬害の確認(飼料用、食用) ・播種後出芽前処理での効果、薬害の確認(北海道:飼料用)
			一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)		とうもろこし1～2葉期、イネ科雑草2葉期まで			北海道		
	てんさい(直播)	実・継	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)	土壌	播種後～てんさい出芽揃期、イネ科雑草発生前	75～120mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道		・ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗに対する効果の確認(北海道)

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
CG-119α乳 S-メトラクロール 83.7% [シンジェンタ ジャパン]	かんしょ	継								・効果、薬害の確認
	てんさい (直播)	実	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを含む)	土壌	てんさい出芽揃期、イネ科雑草発生前	70～100mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道		
DPX-16顆粒水和 チフェンスルフロンメチル 75% [デュポン]	とうもろこし (飼料用)	実・継	一年生広葉雑草、ギシギシ	茎葉	とうもろこし3～5葉期、雑草生育期	2～4g<水量100L>	全土壌	全域	・葉の退色、萎凋、生育抑制を生じることがある	・とうもろこし2～3葉期処理での、効果、薬害の確認(東北以南) ・少水量(25,50L)散布での効果、薬害の確認(東北以南) ・薬害の発生要因について
HCW-201フロアブル DCMU 50% [保土谷化学、北興化学]	大豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	150mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域		・播種後出芽前処理での年次変動の確認(北海道、東北以南) ・畦間・株間処理での効果、薬害の確認(北海道、東北以南)
	小豆	継								・播種後出芽前処理での効果、薬害の確認(北海道、東北以南) ・畦間処理での効果、薬害の確認(北海道、東北以南)
	ばれいしょ	実	一年生雑草	土壌	植付後萌芽前、雑草発生前～始期	100～200mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・タデ類には効果が劣る	
	さとうきび	継								・効果、薬害の確認
HMB-0901フロアブル フェンメディファム 100g/L、 メタミトロン300g/L [北海三共]	てんさい (移植)	継								・効果、薬害の確認
Hoe-866液 グルホシネート 18.5% [バイエル クロップサイエンス]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉(畦間)	大豆生育期雑草生育期	300～500mL<水量100～150L>	全土壌	全域	・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	・畦間・株間処理での年次変動の確認(北海道)
				茎葉(畦間・株間)	生育期(本葉5葉期以降)、雑草生育期(草丈20cm以下)				・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する	
	ばれいしょ	継								・畦間処理での効果、薬害の確認(北海道)

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
HPW-102水和 DCMU 80% [保土谷UPL]	大豆	実(従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	100～200g<水量100L>	全土壌	全域		
	さとうきび(株出)	実	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉	さとうきび生育期、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～150g<水量100L>	全土壌	全域		
	さとうきび(春植)	実・継	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉	さとうきび生育期、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～150g<水量100L>	全土壌	全域	・新植では生育、分げつ抑制を生じる事がある	・多年生広葉雑草に対する効果について年次変動の確認
	さとうきび(夏植)	実・継	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉	さとうきび生育期、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～150g<水量100L>	全土壌	全域	・新植では生育、分げつ抑制を生じる事がある	・薬害の発生要因について
MAH-0801顆粒水和 ｴﾄﾌﾒｾｰﾄ 6.5% ﾌｪﾝﾒﾃﾞｨﾌｧﾑ 6.5% ﾒﾀﾐﾄﾛﾝ 28% [ﾏｸﾃｼﾑ･ｱｶﾞﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	てんさい(移植)	継								・効果、薬害の確認
MAH-0901ﾌﾛｱﾌﾞﾙ 既知A 15% 既知B 35% [ﾏｸﾃｼﾑ･ｱｶﾞﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	てんさい(移植)	―								(作用性)
NC-360ﾌﾛｱﾌﾞﾙ ｷｻﾞﾛﾎｯﾌﾟｴﾁﾙ 7% [日産化学工業]	大豆	実・継(従来どおり)	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)	茎葉	大豆生育期、イネ科雑草3～8葉期	200～300mL<水量100L>	全土壌	全域	・体系処理:広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・少水量(25～50L)散布での効果、薬害の確認(北海道)
					大豆生育期、イネ科雑草8～10葉期			東北以南		
	小豆	実(従来どおり)	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)	茎葉	小豆生育期、イネ科雑草3～6葉期	200～250mL<水量100L>	全土壌	北海道	・体系処理:広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	
					小豆生育期、イネ科雑草6～8葉期	200～300mL<水量100L>				
					小豆生育期、イネ科雑草3～8葉期			東北以南		

A.除草剤　　注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	大豆	継								・収穫前全面茎葉処理での効果、薬害の確認(東北以南)
	菜豆	実	一年生雑草	茎葉(畦間)	菜豆生育期、雑草生育期	200～500mL<水量25～100L>	全土壌	東北以南	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する ・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
	かんしょ	継								・畦間処理での効果、薬害の確認
NH-007液 ピラフルフェンエチル 0.16% グリホサートイソプロピルアミン塩 30% [日本農薬]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉	播種後出芽前、雑草生育期(草丈30cm以下)	400～600mL<水量100L>	全土壌	東北以南		・播種後出芽前処理での年次変動の確認(東北以南) ・多年生雑草に対する効果の確認(東北以南)
NH-9301液 ピラフルフェンエチル 2.0% [日本農薬]	春播小麦	継								・効果、薬害の確認
NM-536P乳 ジメテナミドP 8.5% リニュロン 12% [日産化学]	大豆	継								・効果、薬害の確認
	とうもろこし(飼料用)	継								・効果、薬害の確認
NP-55乳 セトキシジム 20% [日本曹達]	大豆	実・継	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラ除く)	茎葉	大豆生育期、イネ科雑草3～5葉期	150～200mL<水量25～150L>	全土壌	北海道	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	・イネ科雑草6～8葉期処理での効果、薬害の確認(北海道)
						150～200mL<水量100～150L>		東北以南	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ~~・展着剤を加用する~~	
					大豆生育期、イネ科雑草5～8葉期	200mL<水量100L>			・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ~~・展着剤を加用する~~	
	ばれいしょ	実・継(従来どおり)	一年生イネ科雑草	茎葉	ばれいしょ生育期、イネ科雑草3～5葉期	150～200mL<水量100～150L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	・イネ科雑草6～8葉期処理での効果、薬害の確認(北海道)
	てんさい(育苗期、ペーパーポット)	継								・効果、薬害の確認(北海道)
	てんさい	実・継(従来どおり)	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラ除く)	茎葉	てんさい生育期、イネ科雑草3～5葉期	150～200mL<水量25～150L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	・イネ科雑草6～8葉期処理での効果、薬害の確認(北海道)

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
NP-61乳 テプラロキシジム 10% [日本曹達]	大豆	実・継	一年生イネ科雑草	茎葉	大豆生育期、イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	・50mL処理での効果の確認 ・8～10葉期処理での効果、薬害の確認
			一年生イネ科雑草(スズメノカタビラ除く)		大豆生育期、イネ科雑草5～8葉期	75～100mL<水量100L>		全域		
	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
	てんさい	実・継(従来どおり)	一年生イネ科雑草、多年生イネ科雑草	茎葉	てんさい生育期、イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	・イネ科雑草6～8葉期処理での効果、薬害の確認(北海道)
NP-65乳 トプラメゾン 3.6% [日本曹達]	とうもろこし(飼料用)	実・継	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3～5葉期、雑草3～5葉期	100～150mL<水量100L>	全土壌	全域		・年次変動の確認(北海道)
	とうもろこし(食用)	継								・効果、薬害の確認
NTN-70水和 メトリブジン 50% [バイエルクロップサイエンス]	さとうきび(春植)	実・継	一年生雑草	土壌	植付後、雑草発生前	300g<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域		・多年生雑草に対する効果の確認
				茎葉兼土壌	植付後、雑草2葉期まで	100～200g<水量100L>				
S-482顆粒水和 フルミオキサジン 50% [住友化学]	菜豆	実・継	一年生広葉雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	5～10g<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・イネ科雑草に有効な剤との組合せで使用する。 ・初生葉の縮葉や軽微な生育遅延を生じることがある	・薬害の発生要因について
SL-121顆粒水和 既知化合物A 7% 既知化合物B20% [石原産業]	大豆	継								・効果、薬害の確認
SL-122顆粒水和 既知化合物A 7% 既知化合物B30% [石原産業]	大豆	継								・効果、薬害の確認

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
SL-236(L)乳 フルアジホップPブチル 17.5% [石原産業]	大豆	実・継	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	茎葉	生育期 イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・高温条件では高葉齢のイネ科雑草に低薬量で効果が劣る ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	・少水量(25～50L)散布での効果の確認(草丈30cm以下)
					生育期 イネ科雑草5～8葉期	100～200mL<水量25～100L>				
					生育期 イネ科雑草8～10葉期(草丈30cm以下)	100～200mL<水量100L>		東北以南	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・高温条件では高葉齢のイネ科雑草に低薬量で効果が劣る	
	小豆	実(従来どおり)	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	茎葉	生育期 イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	
	菜豆	実(従来どおり)	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	茎葉	生育期 イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	
	ばれいしょ	実・継	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	茎葉	生育期 イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	・年次変動の確認(東北以南)
SL-950フロアブル ニコスルフロン 4% [石原産業]	とうもろこし(飼料用)	実	一年生雑草、シバムギ	茎葉	トウモロコシ3～5葉期、雑草2～4葉期	100～150mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・殺虫剤との近接散布はさける ・処理後葉が変色(黄白化、紫帯色など)することがある ・イヌホオズキ類には効果が劣る ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	
SYJ-100乳 プロスルホカルブ 78.4% [シンジェンタ ジャパン]	春播小麦	―								(作用性)
	ばれいしょ	―								(作用性)
UPH-002フロアブル フェンメディファム 16% [保土谷UPL]	てんさい(直播)	継								・効果、薬害の確認(北海道)
	てんさい(移植)	継								・効果、薬害の確認(北海道)

A.除草剤　　注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
ZK-122液 グリホサートカリウム塩 44.7% [シンジェンタ ジャパン]	大豆	実・継	コウキヤガラ	茎葉	耕起または播種7日以前雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL<水量25～50L>	全土壌	全域(北海道を除く)	・専用ノズルを使用する	・雑草生育期塗布処理での効果、薬害の確認
			一年生雑草			250～500mL<水量25～100L>			・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	
					播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL<水量25～100L>			・大豆の発芽開始後は、薬剤が直接触れると薬害が発生することがあるので注意する。 ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	
				茎葉(畦間)	大豆生育期、雑草生育期	250～500mL<水量25～50L>			・作物に飛散しないように散布する ・専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で使用する	
	小豆	実・継	一年生雑草	茎葉(畦間)	小豆生育期、雑草生育期	250～500mL<水量25～50L>	全土壌	東北以南	・作物に飛散しないように散布する ・専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で使用する	・水量100L処理での効果、薬害の確認(東北以南)
	ばれいしょ	実	一年生雑草	茎葉	植付後萌芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	
	陸稲	実(従来どおり)	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	
アラクロール乳 アラクロール 43% [日産化学]	てんさい(移植)	一								(作用性)
トリフルラリン乳 トリフルラリン 44.5% [ダウ・ケミカル日本]	かんしょ	継								・挿苗後全面処理での効果、薬害の確認
トリフルラリン粒 トリフルラリン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	かんしょ	継								・挿苗後全面処理での効果、薬害の確認
リニュロン水和 リニュロン 50% [デュポン]	大豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	100～200g<水量70～150L>	全土壌(砂土を除く)	全域		・年次変動の確認
			一年生広葉雑草		播種後出芽前、雑草発生始まで				・黄化、生育抑制などの薬害を生じる事がある	
				茎葉兼土壌(畦間・株間)	生育期(本葉3葉期以降)、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～200g<水量100L>			・専用ノズルを使用する。 ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する	

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
レグロックス液 ジクワット 31.8% [シンジェンタ ジャパン]	大豆	―								(作用性)

B.生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
AKD-8182顆粒水和 マレイン酸ヒドラジド カリウム塩 80% [アグロカネショウ]	てんさい	継								・効果、薬害の確認
	ばれいしょ	保留								(試験中)
BJL-993乳 新規化合物 25%(w/v) [BASFジャパン]	大豆	継								・効果、薬害の確認
F-8426EO カルフェントラゾンエチル 6.4% [石原産業]	ばれいしょ	実・継(従来どおり)	茎葉枯凋促進効果	茎葉	開花開始30日以降(茎葉繁茂期)(2回処理)	200mL→150～200mL<水量100L>	全土壌	北海道		・茎葉繁茂期処理での効果、薬害の確認(東北以南) ・茎葉黄変期処理での年次変動の確認(東北以南)
					茎葉黄変始期～黄変期	150～300mL<水量25～100L>		全域		
KUH-833F(M)フロアブル プロヘキサジオンカルシウム塩 5% [クミアイ化学工業]	春播小麦	継								・効果、薬害の確認
エテホン液 エテホン 10% [2,4-D協議会]	春播小麦	実	節間伸長抑制による倒伏軽減	茎葉	出穂始期	100～200mL<水量25Lの場合125～250倍、100Lの場合500～1000倍>	全土壌	全域	・少水量散布の場合は専用ノズルを使用する	
					止葉期	200～333mL<水量25の場合は75～125倍、100Lの場合は300～500倍>			・少水量散布の場合は専用ノズルを使用する ・止葉期とは止葉が確認できた日を目安とする	

C.展着剤

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	試験された使用法							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
NK-701液 ポリオキシエチレンアルキルエーテル 50% ジアルキルスルホコハク酸ナトリウム 22.5% [日本化薬]	てんさい(移植)	―	一年生広葉雑草	茎葉	定植活着後、雑草発生始～揃期	33～50mL、ハーブラック顆粒水和400～600g<水量100L>に加用	全土壌	全域	・シロザ、ハコベには葉齢が進むと効果が劣る場合がある	
NR-26乳 マシン油98% [日本曹達]	大豆	―	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラ除く)	茎葉	大豆生育期、イネ科雑草3～5葉期	200mL、ナプ乳150～200mL<水量100L>に加用	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	